

You, Unlimited



RYUKOKU
UNIVERSITY

龍谷大学 政策学部



Faculty of

Policy Science

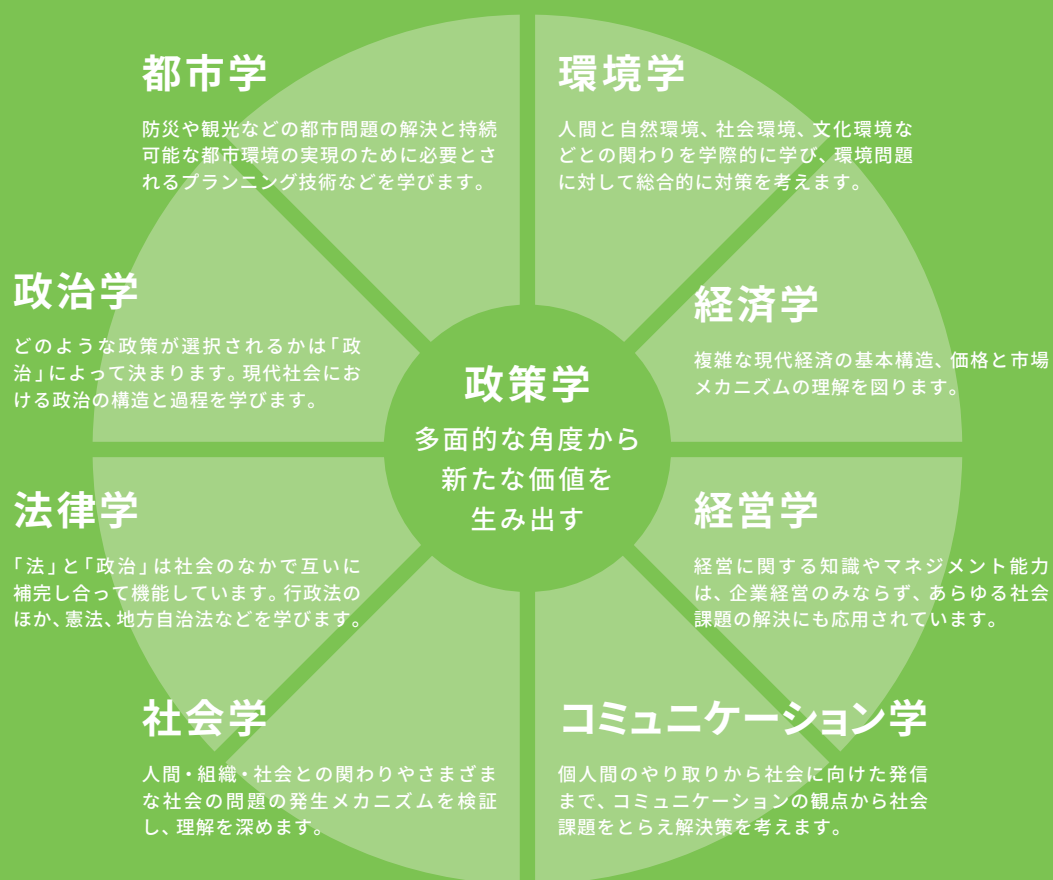
2027



Creating New Values

持続可能な 地域社会をめざし、 新たな価値を生み出す

現代社会には、さまざまな要素が複雑に関係しているたくさんの課題があります。それらを解決するためには、幅広い専門性と知識、そして解決するための実践的な力をもつ人材が必要です。政策学部では、理論と実践のカリキュラムで、社会の課題を発見し解決に向けて自立的に取り組む市民性を身につけた人材を育てます。



Project #1 南丹プロジェクト

解決をめざす「社会課題」▼

中山間地域の活性化



内藤 世理さん

3年生
(静岡県立焼津中央高等学校 出身)

地域の「誇り」を未来へつなぐ 学生視点で中山間地域の新たな価値を創出

伝統の「納豆餅」をリブランディング 地元伝統の魅力発掘と担い手不足解消に挑む

少子高齢化で過疎化が進む中山間地域では、地域の担い手が不足し、独自の文化や産業が失われつつあります。私たちの活動拠点である南丹市日吉町世木地域も例外ではありません。地域が抱える課題に対し、私たちはこの土地で栽培されている「日長し米」のブランディングや、地域資源を可視化した「フェノロジーカレンダー」の製作、農産認証ロゴマークの作成と実装に取り組んできました。地域のブランドを確立し、地域内外の人々に関心をもってもらうことが、この活動の目的です。2024年からは、地域の伝統食である「納豆餅」の新味の開発もスタートしました。従来のは塩味に加え、砂糖や柚子胡椒などの新しい味を開発し、地域や大学のイベント販売を通じて、世木地域の魅力を発信しています。学生視点から地域の強みを再発見し、地域愛を醸成することで、関係人口の増加や新たな担い手の創出をめざします。

「生きた現場」で学ぶ、対話の重み 地域住民との信頼関係が課題解決の鍵に

この活動をとおり、大学で学んだ理論を、地域で実践することの難しさを痛感しました。「持続可能性」や「地域内循環」といった考え方は、社会課題解決における重要な価値観や評価基準です。しかし、それを地域に実装するには、住民の方々との合意形成が不可欠で、コミュニケーションを重ねなければ、思うような成果は出せません。学生同士なら通用する議論も、背景の異なる地域の方々とは噛み合わないことがあり、自分たちのアイデアが独りよがりになっていないか、本当の思いを汲み取れているか、折にふれて原点に立ち返っています。何度も現地へ足を運び、対話を重ねるなかで、信頼関係の重要性を肌で感じました。また、知識を現場で試し、失敗から改善策を見出すプロセスを通じて、協働力と実践力が身についたと感じます。これからも地域に寄り添い、共に未来を創っていききたいと思います。

政策実践・探究演習(国内)

「政策実践・探究演習」は、さまざまな地域の問題解決にチームで取り組むPBL(Problem/Project Based Learning)科目です。話し合いによるまちづくりや、農産物のブランディングとおした農村づくり、地域資源の再発見・評価を通じて地域社会の活路を見出す取り組みなど、複数のプロジェクトがあり、学部生と大学院生が共に参加し学び合います。学生が自分たちで地域課題を分析し、地域住民の方々や、行政、専門家と協力しながら活動することを通じて、論理的思考力や表現力、マネジメント能力などを身につけることができます。(科目の詳細は本学Webサイトから「Webシラバス」をご確認ください)



アクティブラーニングを通じ、グローバルな視点をもった地域づくりを実践的に学ぶ科目。事前学修を経て、台湾以外にも、ヨーロッパやアジアなどで長期休暇を利用して現地プログラムに臨むことで、グローバルな視野をもつために必要な価値観の理解を深め、コミュニケーション能力や国際的な視点から地域社会の課題解決に取り組む能力を身につけます。



「お宮」から見た地域コミュニティの役割 台湾の事例と比較し、共生の条件を探る

日本と台湾、それぞれの地域社会が持続可能に共生・共存していくためには何が必要か。私たちは「地域社会におけるお宮の役割」をテーマに、両国の比較研究に取り組みました。事前学修で調査した京都の事例をもとに、台湾でのフィールドワークを実施し、現地の学生と共に寺廟を訪れ、地域住民から話を聞きました。特に印象に残っているのは、台湾のお宮が地域コミュニティに深く根差し、人々の自発的な支えで成り立っていたことです。日本のお宮が本山を中心とした全国的な組織で支えられているのに対し、台湾はより地域密着型で地域の人々の生活と強く結びついていると知り、日本とは異なる運営形態や、信仰や文化がコミュニティ形成に果たす役割の大きさに衝撃を受けました。一方で、環境問題などの課題も抱えています。伝統を守りながら社会はどのように変化していくべきか、現地の学生と議論を交わしました。

ことばの壁を越えた協働が生む相互理解 異文化を尊重し合う心が、社会を変える

海外経験の少ない私にとって、親日で文化的特徴も似ている台湾は、一歩踏み出しやすい環境でした。語学研修が目的ではないため、英語や中国語のスキルを求められるわけでもありません。それでも、ことばの壁に直面し、意思疎通の難しさを痛感することがありました。諦めず、最後までやり遂げられたのは、現地の学生が親身にサポートしてくれたおかげです。彼らのあたたかさに触れ、「親日」という言葉の奥にある相互理解の深さを実感しました。異なる文化や価値観をもつ人々と協働するなかで学んだのは、自国への誇りを持ちながら、互いの価値観や文化的背景を尊重し合う大切さです。単なる知識の修得ではなく、人と人との繋がりに生まれる「生きた学び」こそが、共生社会の実現に不可欠なのだ気づきました。今回の取り組みは、私を一回りも二回りも成長させてくれる、貴重な経験でした。

Project #2

台湾PBL

▼解決をめざす「社会課題」

多文化・多民族共生社会の実現



一谷 美里さん

4年生
(千葉県立柏中央高等学校 出身)

異なる文化をつなぎ未来を共創する
フィールドワークで見つけた、共生の道

Project #3

地域課題発見演習

▼解決をめざす「社会課題」

放置竹林による里山の荒廃



岩谷 ななかさん

1年生

(兵庫県立生野高等学校 出身)

地域の課題を「自分ごと」としてとらえる 放置竹林の再生から見た、社会課題の本質

放置竹林の背景にある複雑な課題
多角的な視点から、持続可能な解決策を探る

私たちは、龍谷大学のお隣である深草地域の「放置竹林問題」に取り組んでいます。かつてはタケノコの産地として栄えた深草も、農家の高齢化や担い手不足によって竹林が荒廃し、災害のリスクや景観の悪化を招いています。この問題の背景には、所有者不明の土地や竹林管理技術の難度の高さ、課題認知度の低さなど、さまざまな要因が複雑に絡み合う「重層性」がありました。単に竹を切れば解決するという単純な問題ではなく、多角的な視点で課題をとらえ、多様な切り口でアプローチしなければなりません。専門家から竹林管理の技術を学び、実際に汗を流して伐採を行うことはもちろん、高校生向けのイベントを企画するなど、竹の魅力を広く周知するための活動も展開しています。地域の方々と連携し、竹という素材の新たな価値を創造することで、持続可能な保全モデル構築をめざしています。

「他人ごと」から「自分ごと」へ
課題の本質を見抜く「眼」を養う

この活動を通じて得た最大の学びは、社会課題を「自分ごと」としてとらえる姿勢です。以前はどこか他人ごとのように感じていた地域課題も、実際に竹林に入り、整備の厳しさを体感したことで、自分たちの暮らしに直結する切実な問題なのだ気づき、単純な地域の課題でないと理解できました。この事例に限らず、他の社会問題も同じような構図になっています。だからこそ、課題の本質を見抜く目が必要なのです。今回の学びで、知識や経験を、学外の方々にわかりやすく伝える難しさも実感しました。どれほど有意義な活動をしていても、その意義を言語化し、多くの人を巻き込む発信力がなければ、課題解決の道筋は見えてきません。「現場で本質を見極める力」と「課題を自分ごととして考える当事者意識」、そして「伝える力」を糧に、持続的な解決に向けたアクションを継続していきたいと考えています。



地域課題発見演習

「地域課題発見演習」は、1年生から参加できる実践的な演習科目です。キャンパスがある京都市伏見区を舞台に、大学近隣の地域課題に取り組む多様なセクターと連携しながら学ぶCBL (Community Based Learning) を重視し、フィールドワークの手法を学んでいきます。

Ryu-SEI GAP

「Ryu-SEI GAP」(龍谷大学 政策学部 Glocal Action Program)は、学生が主体となり、地域社会の課題や問題を発見し、その解決に取り組む実践型プログラムです。地域コミュニティの衰退や子ども・高齢者の居場所づくりなど、幅広い課題ごとにプロジェクトチームに分かれ、地域の人々とも協力しながら取り組みをすすめています。



地域に飛び込み、地道に重ねた 小さな努力が大きな実を結ぶ

少子高齢化が進み、自治会や町内会の加入率低下や地域コミュニティの希薄化が、大きな社会課題となっています。私たち「むすびと、」のメンバーは、龍谷大学と近隣する藤森学区で地域の方々と協力しながら、この社会課題と向き合っています。活動のテーマは、「地域の繋がりのかたちを問い直す」。学生ならではの視点と行動力を発揮し、藤森学区のホームページの改修やイベントの企画などに取り組んでいます。さらに京都市や他の地域の取り組み事例を取材し、その学びを藤森学区に還元しています。こうした活動をすすめるうえで、私たちが何より大切にしているのは、地域の方々との信頼関係です。丁寧な挨拶や感謝のことばといった小さな行動を積み重ね、仲間として認めてもらえるようになりました。「地域と人」「人と人」を結ぶ存在になりたい。「むすびと、」という名前には、そんな私たちの思いが詰まっています。

コミュニケーションから始まる 結びつきが次への原動力に

この活動をおして学んだことは、大きく3つあります。まず1つ目は、コミュニケーションの本当の楽しさを知ったことです。普段の何気ないおしゃべりも真剣な話し合いも非常に楽しく、地域の方からいただく「ありがとう」は、私たちの大きな力になっています。2つ目は、学生の力だけでは何もできず、地域の方々の協力があって初めて活動が成り立っているという事実です。地域の結びつきの大切さを肌で感じたからこそ、この繋がりを守り、育てていきたいと心を新たにしました。そして最後は、チームワークの素晴らしさです。チーム活動は決して簡単ではなく、苦労も少なくありません。しかし、仲間と共にやり遂げたときの達成感はとても大きく、次の挑戦への原動力に変わります。地道な活動の成果が地域に、そして自分たちに返ってくる。「癖になる楽しさ」を味わいながら、私たちは今日も活動を続けています。

Project #4 Ryu-SEI GAP

▼解決をめざす「社会課題」

地域コミュニティの衰退



田中 咲さん

3年生
(奈良県立高田高等学校 出身)

学生ならではの視点から
「地域と人」「人と人」を結び
まちの未来を創造する

Hot Topics

政策学部の取り組み

1 1年生から地域社会へのフィールドワークを実施

地域での活動をとおりて社会とつながることで、コミュニケーション能力の育成や、課題を発見する気づきの力を養います。さらにヒアリングやアンケート調査の手法を学び、実際に調査を行うことで、その地域での課題解決に向け研究をすすめます。1年生から現場に出て学び、地域の方々と協働して課題を解決できるようなカリキュラムとなっています。また、正課外の活動では、「Ryu-SEI GAP」といった地域の課題解決に取り組むプロジェクトを行っている学生もいます。このような活動をとおりて、プロジェクトメンバーと協力して目標を達成するチーム力を身につけ、どのような道に進むとしても必ず役に立つ力を育成します。



2 地域の未来をデザインする人材へ

政策学部では「初級地域公共政策士」の資格が取得できます。本資格は環境問題や雇用問題、少子高齢化、人口減少、産業衰退といった社会的課題を産官学民の連携のもと解決するため、協働型社会にふさわしいアプローチで地域の公共的活動や政策形成の主導およびコーディネートができる人材「地域公共人材」の能力を保証する地域資格制度です。課題発見力（地域に根差した課題を見つけ出ししていく力）、課題分析力（発見された地域の課題に対し、多角的に分析していく力）、課題共有力（地域の課題に対して、チームで課題解決に取り組む力）、地域で活躍できる力（さまざまなセクターによって担われる地域の公共的な活動を理解し、社会全体に主体的に関与できる力）をアクティブラーニングをとおりて身につけていきます。



3 1年生を支えるクラスサポーター

「クラスサポーター」とは、レポートやレジユメの書き方や設定されたテーマに沿ったグループディスカッションのすすめ方などについて、1年生をサポートする上級生のことです。大学での学びに欠かせないスキルから、学生生活に関する相談まで、先輩ならではの経験をもとにサポートしてくれる強い味方です。また、クラスサポーターが企画・運営するイベントを通じて、1年生同士の交流を深め、より良い大学生活をスタートすることができます。



4 少人数クラスの演習で段階的に学びを深める

演習（ゼミナール）は、講義科目とは対照的に、学生が中心となって学修をすすめています。1年次に開講する約20人クラスの「基礎演習」では、4年間を有意義に過ごすノウハウや政策学を学ぶために必要な能力を修得。2年次前期からは、対話・議論能力を身につけ、2年次後期から始まる「演習Ⅰ」に向け段階的に学ぶことができます。



4-Year Studies

学部サイト



4年間で何を学ぶ？

課題解決を超えて新たな価値を生み出す人材を育む

	1年次	2年次	3年次	4年次
4年間の流れ	<p>基礎をしっかり身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> ●政策学を学ぶうえで必要となる基礎知識を修得する科目を受講。 ●「基礎演習」で、大学での学びの基本「読み・書き、語り、調べ、考える」を身につける。 ●「政策学入門（経済学・政治学・法学）」や「政策学を学ぶ」などで、政策学の基本を学ぶ。 	<p>自分にぴったりのコースを選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ●話し合いの構造やプロセスを学ぶ「コミュニケーション・ワークショップ演習」で、参加・協働型社会に必要な話し合い能力の育成を図る。 ●後期からは「政策構想・環境創造・地域公共人材」の3つまたは学部共通コースのなかから自分に合うコースを選び、専門的に学ぶ。 	<p>専門性を身につけ社会を見る目をじっくり鍛える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コースごとに専門性を高めるプログラムを展開。 ●フィールドワークやインターンシップなど、地域や企業、NPOの現場に入って実践的に学ぶ。 ●2年次後期から一貫したゼミに所属し、卒業研究を制作するための準備がスタート。 	<p>進路を見据えた学び、活動、そして4年間の総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ●4年間の学びの集大成として、ゼミ活動やRyu-SEI GAPなどでの研究成果をまとめた卒業研究に取り組む。 ●就職活動が本格的に始まり、学部で経験してきたことを企業に伝え自己アピールするうちに、自身の活動や成長を振り返る。
専攻科目	<p>[専攻導入科目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基礎演習Ⅰ、Ⅱ ●政策学を学ぶ ●持続可能性と共生を学ぶ ●現代社会の市民性を学ぶ など <p>[専攻基本科目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●政策学入門（政治学）●政策学入門（法学） ●政策学入門（経済学） ●政策学のための統計・数学 など 	<p>政策構想コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域・都市政策プログラム ●国際・比較政策プログラム <p>環境創造コース</p> <p>地域公共人材コース</p> <p>学部共通コース</p>	<p>日本、そして世界の地域政策を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域・都市政策総論 <p>環境にやさしい社会を実現する政策主体の役割を創造する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境政策総論 <p>地域社会および地域政策の担い手としての職業人をめざす</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域公共人材総論 	
演習科目	<p>基礎演習Ⅰ</p> <p>基礎演習Ⅱ</p> <p>地域課題発見演習</p>	<p>コミュニケーション・ワークショップ演習</p> <p>政策実践・探究演習（国内）・（海外）</p>	<p>演習Ⅰ</p> <p>政策学研究発展演習Ⅰ～Ⅴ</p> <p>キャリア・コミュニケーション演習</p> <p>企業のCSR実践演習</p> <p>グローバル戦略実践演習</p>	<p>演習Ⅱ（卒業研究含む）</p>

[取得可能な免許・資格]

- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 高等学校教諭一種免許状（公民）
- 本願寺派教師資格（受験資格）
- 「地域公共政策士」資格制度「初級地域公共政策士」
- グローバルプロジェクトマネジャー（GPM）

[めざす職業・進路]

- 公務員（国家・地方）
- NPO／NGO団体
- シンクタンク
- 商社
- 金融機関
- メーカー
- メディア系企業（放送・新聞）
- 環境問題に取り組む企業
- 社会起業家
- 大学院 など

Seminars

ゼミ紹介

今里 佳奈子 ゼミ

中山間地域の持続可能な地域づくり

11年続く信頼を基盤に、共に汗を流す
継続的な関わりが、真の課題解決への道

同じ地域に通い続けるからこそ見えるもの

今里ゼミの最大の特徴は、11年間にわたり京丹後市宇川地域でフィールドワークを継続している点です。「持続可能な地域のあり方を、自治・協働の観点から考える」というテーマのもと、月に一度のゼミ合宿を通じて現地調査や地域交流を行っています。住民の方々と共に汗を流して米の栽培に取り組み、地域のイベントに参加することで、普段の生活では決して味わえない中山間地域のリアルを肌で感じられます。単なる訪問者としてではなく、地域の一員として深く入り込むことで、座学の知識が「生きた知恵」へと変わる瞬間を何度も経験してきました。理論と実践を結びつける独自のフィールドワークに参加できること、豊かな自然の中で試行錯誤しながら、住民のみなさんと一緒に地域を盛り上げていくプロセスに、大きなやりがいを感じています。

先輩から受け継ぐ研究のバトン

一連のゼミ活動をおとして、地域おこしに最も重要なのは「継続性」だと学びました。長年続く継続的な活動によって築いてきた住民の方々との強い信頼関係があるからこそ、私たち学生もスムーズに受け入れられ、表面的な調査では見えない本音や深い課題に触れることができます。また、先輩方の研究成果を引き継ぎ、研究を発展させていくことで、単年度では不可能な深い分析が可能になります。こうした実践経験は、理論と現実のギャップを埋め、地域の実情に即した説得力ある政策提言を行うための強みとなる違いありません。一過性のイベントで終わらせず、地域に根ざして粘り強く課題に向き合う姿勢こそが、持続可能な発展への第一歩だと確信しています。私たちの調査・研究を引き継いでくれる、後輩の参加をお待ちしています。



深申 仁さん

3年生
(大阪府 大阪高等学校 出身)



その他の研究室テーマ

- 地域資源の読解・発掘の方法を学び、都市の課題解決を図る
- 地域経済と環境をテーマに地域の制度・政策について考える
- 災害・交通の観点から地域を守る政策に関する理論と実践を探究
- まちづくりの理論や実践を学び、地域再生や活性化を考える
- 知的資産経営を学び、その理論から地域創生を実践
- 農村での実践活動を通じて、食と農の政策課題に取り組む



大島 堅一 ゼミ

持続可能な社会と環境政策

暮らしと直結する環境政策の深層を学び 現場での対話から地域固有の課題を見出す

政策の側面から社会を動かす知識を求めて

環境問題は地球規模でありながら、地域や暮らしと直結している分野でもあります。制度や政策の側面から環境問題をとらえ、現実社会で活かせる知識を学びたいと思ったのが、環境政策を扱う大島ゼミを選んだ理由です。このゼミでは、最先端の現場に足を運び、肌で課題を感じることを大切にしています。2025年度は「再生可能エネルギー」をテーマに掲げ、実際に長野県や兵庫県を訪れました。そこで痛感したのは、数字や制度だけを見ているだけでは、真実には届かないということです。現地の方々のリアルな声に耳を傾け、その土地の歴史や人々の切実な思いを知るなかで、課題の裏にある地域の背景を深く理解する重要性を実感しました。現場を知ることで、文献調査だけでは得られない多面的な視点が養われたと感じます。

正解がないからこそ面白い、対話と合意形成

環境政策は行政、住民、企業といった多様な主体の協働によって成り立っています。ゼミでは他大学の学生とも徹底した議論を行い、専門の異なる視点から課題をとらえ直すことができました。一方的に正解を押しつけるのではなく、粘り強く対話を重ねて合意形成をめざす。それこそが、この分野を学ぶ醍醐味かもしれません。それぞれの意見を一つにまとめていくことは容易ではありませんが、自分だけでは気づけなかった新たな視点を導くことができ、チームワークの大切さに気づけたのだと思います。実効性のある答えを導き出す調整力が身についたことも、ゼミ活動の大きな収穫です。正解がないからこそ面白いこの学びをさらに深め、次は環境と他分野の繋がりを追究していきたいと思っています。



佐藤 楓花さん

3年生
(大阪府立旭高等学校 出身)

- 身近な暮らしの中で環境問題を考える
- 自治体における産業や観光などの政策を中心に研究
- 都市の魅力、公共空間の豊かさの創出、都市のプランディング

- 地域の持続性や生活課題の解決に向けた活動を展開
- 持続可能な脱炭素地域づくりに、〇〇の研究・実践により貢献
- コミュニケーションやことば(言語)を切り口に社会的課題を改善

JA全農青果センター株式会社

営業部 勤務

国産青果物の価値を広め、
生産者に還元する

国内農業を守るため、生産者への還元に重きを置いて国産青果物の流通販売を担っています。単に商品売るだけでなく、産地のこだわりや魅力を伝える提案を行い、産地への利益還元をめざしています。大学時代は環境問題や環境政策を中心に学び、ゼミでは再生可能エネルギーや次世代型農業を追究しました。そのときに、「日本の食料自給率の低さに問題意識をもったことが、「国内の農業を支えたい」という思いにつながりました。卒業論文制作にあたり、食糧システム形成の歴史を調査したことも、今の仕事に役立っています。安価な輸入品に負けないよう、国産青果物の価値を広め、日本の食料自給率の維持に少しでも貢献できればと考えています。

市来 ゆすらさん

2025年卒業
(京都府立鳥羽高等学校 出身)

Life after G



仕入れた青果物を手に取ると、思わず笑みが浮かんできます。同時に収穫に至るまでの苦労と努力も伝わってきて、生産者さんの思いを一人でも多くの人に届けなければと、気が引き締まります。

My Background



大学1年生

討論会での集合写真。クラスリーダーとしてチームをまとめる難しさに直面しましたが、そのぶん達成感もひとしおでした。



大学2年生

環境政策が進むフィンランドでの研修に参加。英語のみのコミュニケーションに挑戦し、毎日が発見の連続でした。



大学3年生

ゼミ合宿での1枚です。千葉でソーラーシェアリングや「半農半X」について学ぶなか、農業をより身近なものに感じられました。



大学4年生

卒業旅行にシンガポールへ行きました。最高のゼミ仲間と切磋琢磨して過ごした4年間は、今も私を支える宝物です。

国土交通省中部地方整備局 富士砂防事務所用地課 勤務

周囲と協働し、
砂防事業の根幹を支える

富士砂防事務所では、富士山砂防事業や由比地すべり対策事業を担っています。私が所属する用地課の主な仕事は、富士山砂防事業に必要な用地取得に関する業務です。現場確認や事務手続き、用地交渉を行い、防災事業の基盤を支えています。担当業務は決まっていますが、自分一人では解決できない問題ばかりで、課内や他部署との連携は不可欠です。ゼミ活動でコンペや討論会の準備を行い、メンバーと協力しながら一つのものをつくりあげた経験が、今に活かしているのを実感しています。この仕事はとても奥が深く、学ぶべきことが数多くあります。チームワークを発揮するためにも、周囲から知識を吸収し、自分自身を高めていきたいと考えています。

raduation

藪田 明香吏さん

2025年卒業
(静岡県立藤枝東高等学校 出身)

My Background



大学1年生

コロナ禍の制限下でも授業やサークルに積極的に参加。放送サークルで技術を磨き、イベントにも携わり、多様な経験を積みました。



大学2年生

ゼミ活動での「まち歩き」の一幕です。店舗への取材や訪問先でのスケッチを行い、まちの現状を肌で感じる日々でした。



大学3年生

まちづくりを学ぶ学生が参加するイベントを主催。2日目のフィールドワークの総括は大変でしたが、やりがいを感じられました。



大学4年生

卒業論文のテーマは「つかわれなくなった学校校舎の活用」。4年間の学びを軸に執筆に取り組み、無事に卒業の日を迎えました。



用地取得には、地権者に対する事業説明が必要です。どのような土地でどこに施設を設置するのか、現場確認が欠かせません。入念に準備し交渉がスムーズに進んだときに、大きなやりがいを感じます。

Careers

政策学部の就職

就職に強い学生を育てる政策学部独自のキャリア教育

1年次から就職を意識した目標を設定し、そのためにはどのように学んでいくかの動機づけを行う科目を用意しています。さらに2年次からは「働く」ことに対して社会・経済・雇用環境などの観点から理解を深めます。業界研究・企業の現状や展望を理解する科目もあり、就職に強い学生の育成をめざします。

政策学部独自のキャリアイベント

公務員セミナー・ガイダンス開催

政策学部では公務員試験に向けた試験対策勉強会を開催し、教員による公務員試験準備指導・相談を行うなど、公務員への就職を手厚くサポートしています。また、公務員の仕事を理解し、求められる知識やスキルについて考えるために、国会議員や地方自治体首長経験者を招いての講演や本学卒業生による公務員体験談を聞く機会を提供するとともに、公務員試験合格者によるセミナー、試験対策ガイダンスなどを実施しています。



キャリアシンポジウムの開催

社会に出てから求められる人材像を明らかにし、学生時代の過ごし方を考える機会を提供するために、企業の経営者や人事担当者などによる講演や社会で活躍している政策学部卒業生によるパネルディスカッションを実施しています。政策学部での経験が仕事にどう活かされたかなど、リアルな体験談に触れることで、政策学部の学生たちは、早期から将来を見据え、自らのキャリア形成における気づきを得る場となっています。



実践的な学びで多様なキャリアを切り拓く政策学部

政策学部では、学生時代の学びから実際にビジネスの手法（ソーシャルビジネス）を用いて社会的課題や問題解決を図るために起業した社会起業家が誕生しています。また、より専門性を高めるために大学院に進学する学生が多数いることから、奨学金制度や大学院科目の早期履修制度など支援を充実させています。

株式会社RE-SOCIAL

起業のきっかけは、政策学部の授業での獣害被害の実地調査でした。獣害被害対策として捕獲や銃殺されたシカやイノシシは、約9割が焼却や埋設によって廃棄されている現状を目の当たりにしました。そこで、シカの捕獲の効率化を図り、捕獲したシカも有効活用されるという好循環を生む持続可能なビジネスモデルを考え、起業しました。RE-SOCIALの行う事業は、多くの地域が直面する課題の解決にもつなげていくことができます。限りある資源を大切に、消費者や地域まで利益を還元できる社会をRE-SOCIALが実現していきます。

笠井 大輝さん

2020年卒業
(大阪府立花園高等学校 出身)



龍谷大学大学院政策学研究所

学部時代は、都市計画・都市デザインを専門に学び、3年次に日本建築学会近畿支部主催の「アーバンデザイン甲子園」に出場しました。学びを実践につなげる経験をとおり、専門性を深めたいと思うようになり、大学院への進学を決意しました。現在は、学部での学びを継続しながら、「地域らしさとは何か」「地域の個性はどのように形成・継承されるのか」といった問いに挑戦しています。大学院の講義は学生主体ですすめられ、専門分野の異なる学生と議論を交わすなかで新たな視点を得られることも少なくありません。さらに専門性を深め、持続可能な都市の実現に貢献したいです。

川瀬 遥奈さん

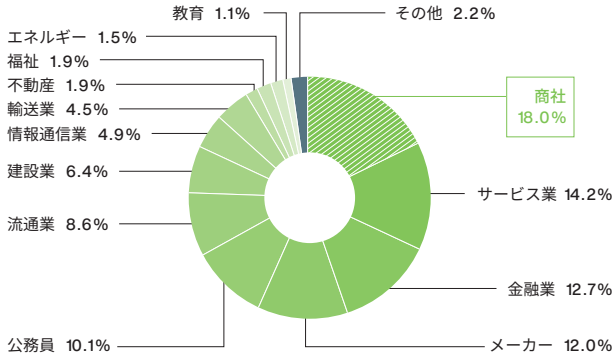
2024年卒業
(滋賀県立八幡高等学校 出身)





就職状況 (2025年3月卒業生)

政策学科



在学中に培った社会課題発見・解決能力を活かし、
公務員、NPO、民間企業など幅広い業種で活躍

【主な就職先】

- 【建設業】
 - 株式会社長谷工コーポレーション
 - 【メーカー】
 - アルプスアルパイン株式会社
 - 【エネルギー】
 - 関西電力株式会社
 - 【輸送業】
 - 近畿日本鉄道株式会社
 - 西日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本)
 - 【流通業】
 - 株式会社ニトリ
 - 青山商事株式会社
 - 【金融業】
 - 株式会社大垣共立銀行
- 株式会社関西みらい銀行
- 株式会社京都銀行
- 株式会社静岡銀行
- 株式会社クレディセゾン
- 第一生命保険株式会社
- 【情報通信業】
 - 富士ソフト株式会社
- 【公務員】
 - 国土交通省
 - 財務省
 - 法務省
 - 大阪府庁
 - 京都府庁
 - 京都市役所 など

※主な就職先は業種順に記載



株式会社セガ 内定

柔軟な思考で世界中に 感動体験を届けたい

地域レジリエンスや防災、災害ボランティアへの学びを深めました。実際に被災地を訪ね、炊き出しや生活再建を支援した経験は、私の行動を変えるきっかけになった気がします。相手に寄り添い、その立場に立って行動する柔軟性が身につきました。内定先を選んだのも、誰かを支える仕事に就きたいと考えたからです。卒業後は、エンタメを通じて世界中の人々に感動体験を届けます。

中島 律さん

4年生
(大阪府立桜塚高等学校 出身)



大日精化工業 株式会社 内定

環境の専門知識で未来 社会に貢献する

海洋プラスチック問題や再生可能エネルギーなど、環境分野の専門知識を深めると同時に、ゼミ活動を通じて、LGBTQに関する自治体の先進的な取り組みも取材しました。幅広い学びと経験によって得た複眼的な視点は、面接でも高く評価していただけたと感じています。内定先は環境問題に力を入れています。大学で学んだ環境の専門知識は、仕事をするうえでも大きな強みになると確信しています。

竹田 光真さん

4年生
(京都府龍谷大学付属平安高等学校 出身)



京都府庁 (行政職) 内定

現場視点で社会を見つめ、 府政の課題に挑む

京都府の持続可能な未来を追い及政策を提言したゼミ活動が、私の進路を決定づけました。政策学部では社会課題の本質を見抜き、自分なりの解決策を導き出す観察眼と思考力が徹底的に鍛えられました。こうして培った能力は、公務員試験の論文や面接を突破するうえで不可欠だったと感じています。大学で得た現場視点や忘れず、京都府の課題解決や府政推進に尽力していきたいと考えています。

宮木 健成さん

4年生
(東京都立八丈高等学校 出身)



株式会社福井銀行 内定

内定の鍵は観光政策の 学びで得られた傾聴力

ゼミ活動をおとして、京都でのオーバーツーリズム対策などの観光政策を実践的に学びました。そこで得た「傾聴力」と「多角的に考える視点」は、就職活動で大きな武器となりました。また、ゼミの先生に客観的な評価を求めるなど、自己分析を徹底したことも内定につながりました。今後は、お客さまや地域の本質的な課題を見極め、より良い解決策を提案し実行できる社会人をめざします。

菅原 あす香さん

4年生
(福井県 仁愛女子高等学校 出身)

京都深草キャンパス*

京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-2285 seisaku@ad.ryukoku.ac.jp

大阪、奈良、兵庫から好アクセス

JR「大阪」駅 → 約42分

京阪「京橋」駅 → 約41分

近鉄「奈良」駅 → 約43分

JR「三ノ宮」駅 → 約63分

※2027年4月、「深草キャンパス」より名称変更。

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一步を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学 政策学部

あらゆる「壁」や「違い」を乗り越えるために、「まごころ」を持ち、
「人間・社会・自然」について深く考える人を育む。
それが、龍谷大学の教育のあり方です。

自分自身を省み、人の痛みに感応して、
他者を受け入れ理解する力を持つ。
人類が直面するリアルな課題と真摯に向き合う。
そして様々な学びを通じて本質を見極める目を養い、
自らの可能性を広げていきます。



<https://www.policy.ryukoku.ac.jp>

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2026年5月発行

